

令和 8 年度 今治市自立支援協議会 発達支援部会（第 2 回）議事録			
日 時	令和 8 年 8 月 12 日（水）15：30～17：00		
場 所	今治市総合福祉センター 4F 多目的ホール 2		
出席者	ひよこ園・子育て応援ステーションばんび・障がい者生活支援センター・今ねっと・ときめき・今治市保育幼稚園課・今治市ネウボラ推進課・今治市中央保健センター・今治保健所・今治市教育委員会学校教育課・今治特別支援学校・小学校特別支援学級・中学校支援学級・あすなろ・今治市基幹相談支援センター・あいゆう・愛媛県医療技術大学・メンター松山・今治市障がい福祉課・今治市発達支援センター・（計 30 名）		
司 会	発達支援センター	記 録	今ねっと
内 容	1. Q-SACCS からの強みと課題について ・ 3 グループでグループワーク、発表 《強み》 相談支援専門員等がいることで切れ目のない相談支援がある。 未就学児は、市の事業が短いスパンで支援があり経過を追いやすい。 中学校まで、引継ぎができています。 今治特別支援学校では引継ぎは、受験後、教育相談でできている。 保育所から学校への引継ぎが保育所児童保育要録等でできている。 年齢層が若いほど、事業化できている。 レベルⅠからレベルⅡのインターフェイスは。さまざまな機関が入っている。 発達支援センターが、乳幼児から成人まで、どの時期も関わりを持つことができること 就学前まで事業化されている支援が多く社会資源が充実している。 健康推進課保健師が、地区担当制で乳幼児から高齢者まで家庭と子どもを見守り関わる ことができる。 5 歳児相談を機に就学に向けた連携がある。（幼保連絡会） 《課題》 主体が分断されており、引継ぎが途切れやすい。 サポートブックや学校、療育先の個別支援計画・個別指導計画が十分に活用されておらず、情報を各機関で共有されていない。 高校卒業後の支援の引継ぎが、人依存になっている。 支援にばらつきがある。ケース会での対応の共通化を図ることが必要ではないか。 高校卒業後、支援につながりにくい。 相談支援専門員に依存してしまっているのでは？その方がいなくなったら困るのでは？ 就学すると学校に委ねることが多くなり、保健師との関わりが希薄になってくる。 学校と保健師の連携（不登校や引きこもりの支援にも活かされる。就学時健康診査の情報をやりとりできると良い。） 義務教育以降、個人任せの傾向で義務教育以降の支援が弱い。 福祉計画と教育計画の共有がされていない。 担任の先生によって、子どもの支援の興味にばらつきがある。 担当者会を開催する際、学校や保育所を含めるか含めないか親御さんの希望によって決めていることが多く、放デイ等福祉関係とは共有できているが、学校等と共有する機会が持てていないことがある。 陸地部と島嶼部の方の支援を受けられる格差がある。 就学以降は、事業化されている支援が就学前と比較すると少ない。 レベルⅡからレベルⅢのインターフェイスは発達支援センターに集中している。（強みでもある） 人依存になっている。 連携の会が少ないのでは？ 保健・教育・福祉の分野で、全体を見ている人が少なく、つながりが薄い。		

2. 地域ケアパスについて

- ・地域ケアパス概要図作成の進め方の説明（愛媛県立医療技術大学 瀬戸氏）資料参照
- ・グループごとに、就学前と学童期から就労までの期間の地域ケアパス概要図に資源などを書き込む。（グループごとの資料参照）

3. その他、各機関からのお知らせなど

基幹相談支援センターより、

日本自閉症協会全国大会愛媛大会（令和8年11月7日8日開催予定）

令和8年度障がい理解のためのセミナー（令和8年9月20日開催予定） 紹介

4. アドバイザーよりアドバイス

- ・今治市はほぼサービスは網羅されていると思う。書けたことが強み。支援者同士がお互いを理解し、ざっくばらんに話ができることが大事。お互いが遠慮なく言えることが強み。

○次回

10月1日（木）15：30～17：00

今治市総合福祉センター 4階多目的ホール2

司会：発達支援センター 記録：特別支援学校